

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

## 資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 7つの習慣 | 主体的である②

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&amp;A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

### 主体的である②

#### 主体的である②

私たち人間に本来備わっている性質は、周りの状況に自ら影響を与えることであって、ただ漫然と影響を受けることではない。

自分が置かれた状況に対する反応を選ぶだけでなく、状況そのものを創造することもできるのだ。

率先力を発揮するというのは、押しつけがましい態度をとるとか、自己中心的になるとか、強引に進めたりすることではない。

進んで行動を起こす責任を自覚することである。

率先力を発揮する人とならない人の違いは、天と地ほどの開きがある。

「7つの習慣」を身につけるにも率先力がある。

第1の習慣「主体的である」の後に続く6つの習慣を勉強していくと、主体性という筋肉が他の6つの習慣の土台となることがわかるはずだ。

どの習慣でも、行動を起こすのはあなたの責任である。

周りが動くのを待っていたら、あなたは周りから動かされるだけの人間になってしまう。

自ら責任を引き受けて行動を起こすのか、それとも周りから動かされるのか、どちらの道を選ぶかによって、成長や成功の機会も大きく変わるのである。

企業、自治体、家庭も含めてあらゆる組織が、主体的であることができる。

どんな組織も、主体的な個人の創造力と知恵を結集し、主体的な組織文化を築ける。

自分がどのくらい主体的な人間か自覚するいい方法がある。

自分の時間とエネルギーを何にかけているかに目を向けてみる。

誰でも広くさまざまな関心事を持っている。

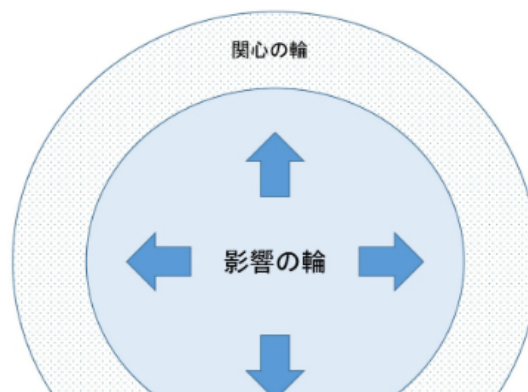
健康や家族のこと、職場の問題、国家財政、核戦争、等々。

その関心事を「関心の輪」の中に入れてみる。

関心の輪に入れたことを見ると、自分がコントロールできるものとできないものがあることに気づく。

自分でコントロールでき、影響を与えられるものを「影響の輪」として小円にくくる。

この二つの輪を眺めて、自分の時間と労力を主にかけているのはどちらだろうか、と考えてみる。



#### 主体的な生き方




教育カリキュラム

日本国憲法

傾聴

語り部スキル

▶ キーワード検索はこちら



主体的な人は、影響の輪の領域に労力をかけている。  
自分が影響を及ぼせる物事に働きかける。  
主体的な人のエネルギーには、影響の輪を押し広げていくポジティブな作用があるのだ。  
一方、反応的な人が労力をかけるのは影響の輪の外である。  
他者の弱み、周りの環境の問題点、自分にはどうにもできない状況に関心が向く。  
自分が影響を及ぼせる物事をおろそかにしてしまうと、ネガティブなエネルギーが増え、その結果、影響の輪は小さくなっていく。

私が本当に状況を良くしたいのであれば、自分が直接コントロールできること—自分自身—to働きかけるしかない。  
影響の輪の中でできることはいくらでもある。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

**Worker's Library 会員登録**  
お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

▶ サイトマップ ▶ このサイトについて ▶ 個人情報保護の取組みについて

▶ ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

**Worker's Library** 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.